

下庄をよくする会

1 基本データ

- 地区名 下庄地区
- 人口 9,152人 (平成24年1月)
- 世帯数 2,914世帯 (平成24年1月)
- 地区の沿革

下庄地区は大野市の北西部に位置し、昭和29年に2町6ヵ村が合併して大野市が誕生した時に、下庄町も大野市に編入されました。当地区は勝山市と隣接していて、奥越地区全体から見ると中心地域として、県立高校、警察署、土木事務所、奥越合同庁舎、健康保養施設(あつ宝んど)、郵便局等の官公庁等が集中しており、近年、複数の新たな商業施設も立地しています。

また、中部縦貫自動車道の大野ICも当地区に建設され、国道157号大野バイパス(東縦貫線)も建設されています。

- 実施主体 下庄をよくする会

2 現状と課題

○現状

- ①市街地に隣接しているため、地区内は農家と非農家が混じり合っています。
- ②地区内の行政区や各種団体は、既に様々な地域づくり事業を、活発に行っています。
- ③新たな幹線道路に隣接した堂本では区民による地場野菜の販売所開設が見られ、矢では独自にカタクリや桜を中心とした公園整備やイベントの開催、陽明町では古くから伝わる不動明王と御堂の建替事業などのそれぞれの資源を生かした地域づくり事業を行っています。

○課題

- ①地区内では、新たな幹線道路、商業施設等に隣接し、人の往来が多くなる地域と、現

状では人の往来の増加を望めない地域があり、区民の地域づくりに対する意識の違いがあります。

- ②地区民が交流することで、団結力を高め地区内を元気することを目的に毎年10月、「下庄まつり」を開催しています。毎年、地区内外から多くの人を訪れています。



まつりでは、地場野菜を販売する「青空市」や地区民による「フリーマーケット」が開かれ、好評を博しています。



- ③下庄をよくする会では、地区内の33区毎に「地区推進委員」を選任してもらい、各区とのつながりを大切にしていますが、会議や活動への参加率は低く、一部の委員への偏りが多くなっています。

3 事業の内容

平成22年度において整備を行なった、地域づくり拠点施設「下庄青空市」での地場野菜等の販売に必要な備品を整備するとともに、

出品者や地区推進委員等との連携による体制づくりを行い、地場野菜等直売所の定期開催を行います。また、この施設を利用して地区民の交流イベントや、子ども達の販売体験などの事業を企画しながら、周知を図るための啓発活動を進めていく予定です。

4 事業の成果

①本年度においては、地場野菜の販路と地区民への提供を事業の中心として取り組み、販売に向けた施設と運営体制の整備を行い、6月26日に直売所「下庄青空市」をオープンし、以降11月27日までの毎週日曜日、午前8時から12時まで定期的な開催を行ない、基本的な運営体制を築くことができました。



②農産林物の出品者を主体とした「下庄青空市運営協議会」を立ち上げたことにより、「下庄青空市」が地域の拠点施設として機能し、地区民の交流の場を創出することができました。協議会では、運営に関する話合いのほか、視察研修なども行いました。



③下庄地区社会福祉協議会の主催で、子ども達が農業体験を行なっている世代間交流事業の圃場「下庄っ子農園」で栽培した、野菜の一部を試験的に販売しました。

④オープンに向け、機関紙や区長、地区推進委員等を通じ農産物の出品者の募集を行うとともに、ポスターやチラシによる広報、また近隣スーパーとの連携による広報により、地区民に事業内容をPRすることができました。



5 今後の展望

平成24年度においては、ハード的な面では、拠点施設「下庄青空市」での販売において、今後必要となる施設の整備と備品を追加していく

予定ですが、これと平行して、ソフト的な面では、①運営体制の安定化を目指し、出品参加者数の増加を図る、②地域と連携したイベント等を企画する、③将来に向けた加工品の生産について検討するなどについて積極的に取り組んでいく予定です。

地域づくり拠点施設「下庄青空市」のより効果的な活用により、「下庄をよくする会」の持続的な発展と、中部縦貫自動車道の開通を見据えた中での下庄地区の活性化につなげていきたいと考えています。